

Close up

だて

シリーズ ふるさと探訪④

「胆振の海運王」

伊達市に住む私たちが知っていたいそう却不知道の歴史や裏話を生涯学習課文化財係がシリーズでお届けします。



はしけでの輸送

今

から16年前、伊達市の開拓が始まってもうすぐ30年になろうとしています。まだまだ陸上の交通の便は悪く、大きな荷物は小船での輸送に頼っていました。しかし、これではまちの発展が進みません。人や物を大量に輸送できる大型船の導入が差し迫った課題でした。

このような背景の中、大きな輸送船をもつ船会社が設立されました。それが「噴火湾汽船株式会社」です。この会社は、伊達→虻田→森→室蘭を結ぶ航路を運航し、新鮮な伊達野菜や海産物を輸送しました。当初2隻の輸送船で事業が始まりましたが、業績が上がり、大正5年には6隻の船団を保有するまでに成長します。当時は岸壁がなかったため、「は



大正時代の噴火湾汽船の船団

しけ」と呼ばれる小船を使い、沖で乗り換えなければならず、悪天候ではしばしば欠航もありました。それでもこの海運会社が噴火湾一帯の物資交流に果たした役割は大きく、文化的にも産業的にもまちの発展に尽くした功績は偉大なものといえるでしょう。

しかし、昭和3年に鉄道が伊達紋別まで延びたことで、その価値は薄れてしまい、ついに会社は解散する運命をたどります。

時が流れて平成27・28年、北海道新幹線の開業と共に2次交通と観光を兼ねることが期待される森町と室蘭を結ぶ「森蘭航路」の実証実験が行われました。

かつて鉄道によって姿を消した噴火湾航路が、今度は新幹線のおかげで復活するかもしれません。



噴火湾汽船株式会社の本社

表紙のはなし

4月8日、伊達小学校の入学式が行われました。ピカピカのランドセルを背負い、胸を張って登校する新1年生。式が始まり名前を呼ばれると、大きな声で返事をしていました。緊張が解けたのか、退場するときには家族や友達に手を振る姿も見られました。小学校生活を楽しんで過ごしてほしいですね。



楽画記

■「楽画記」は平成2年の5月(381号)から、26年間も続いています。このコーナーを作った先代からの歴史をさらに繋げるため、皆さんに広報紙最終ページの楽画記まで読んでもらえる工夫をしなければ、という責任を感じます。実を言うと、こだけを読む楽画記ファンもいるようなので、編集上一番悩む場所なのです。(や)

■日の出が早くなるにつれ、眠気が増す今日この頃、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。私は就寝する時間が季節問わず一定で、お日様が出ると目が覚めるため、とんとん寝不足に。寝溜めは利かないといわれますが、休日は柔らかな春の日差しを感じながら家でまったりしたりウトウトと…したいものです。(と)

■まちの話題でご紹介していますが、伊達小学校の入学式にお邪魔しました。写真を撮りながら「自分の入学式はどんな感じだったかなー」と思い出そうとしましたが、何も思い出せません。それどころか、小学校2年生頃までの記憶がほとんどありません。印象的な出来事がなかったからでしょうか。それとも…。(た)

発行・編集

伊達市企画財政部企画課
TEL 0142-23-3331 内線238・239

FAX 0142-23-4414
E-mail kouhou@city.itate.hokkaido.jp
〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

とじて保存しましょう